平成２９年度 群馬大学教育学部 障害児教育専攻

推薦入試・帰国生入試問題

《　注意事項　》

○ 解答を始めるという指示があるまで、問題文は見ないでください。この表紙の注意事項に目を通しておいてください。

○ 小論文試験の解答時間は 90 分間です。

○ この問題冊子は表紙を含めて 4 枚です。

○ 解答用紙は、[問題１]と[問題２]にそれぞれ 1 枚ずつ（合計 2 枚）が配布されます。決められた解答用紙に解答を記入し、2 枚とも受験番号のみを記入してください。

○ 解答しなかった解答用紙がある場合でも回収しますので、持ち帰らないでください。

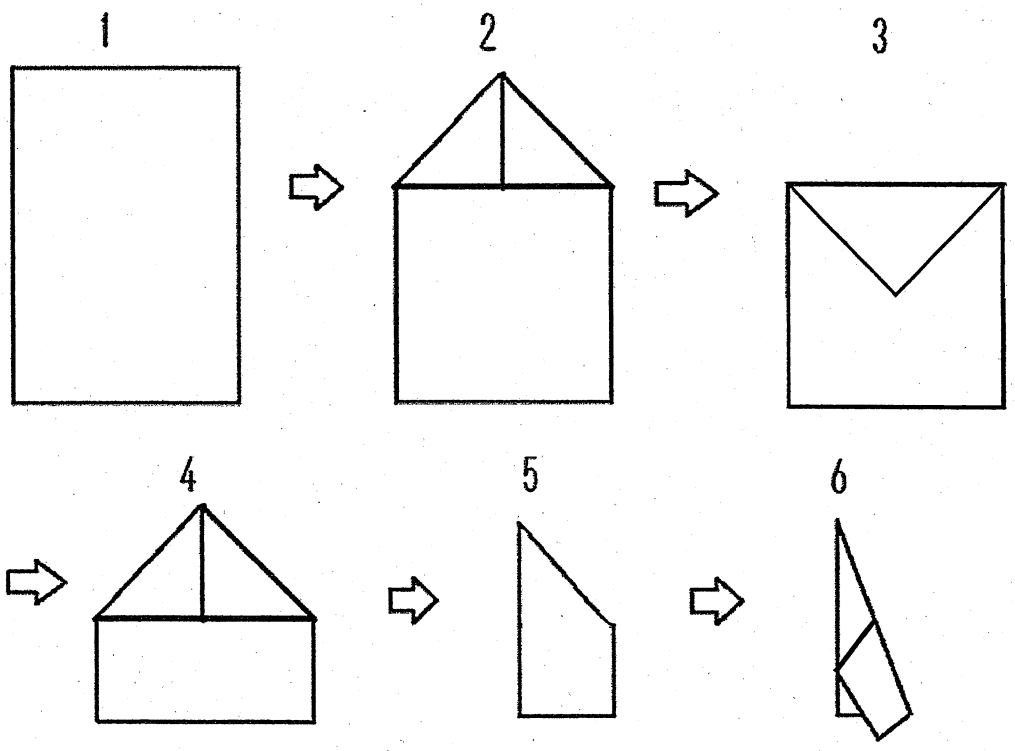
○ 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

平成２９年度 群馬大学教育学部 障害児教育専攻

推薦入試・帰国生入試問題

問題１

以下の図は、紙飛行機の折り方を示した図です。図中の 1～6 の折り方の手順について、以下の図を見せながら小学校 6 年生に説明するとしたら、あなたはどのように説明しますか。解答用紙に折り方の説明を書いてください。なお、説明の際には解答用紙に図などを記さず、文章のみで説明してください。



平成２９年度 群馬大学教育学部 障害児教育専攻

推薦入試・帰国生入試問題

問題２

以下の文章を読んで、いじめが問題視され始めた当初のいじめと現代のいじめとで、いじめの原因はそれぞれ何だと考えられていたかを説明してください。その上で、通常の学級の担任教師としていじめの発見について、どのような点に留意しなければならないでしょうか。あなたの考えを600字以内で述べてください。

生徒間のいじめが社会問題の一つとして人びとの注目を集めるようになったのは、1980年代の半ば頃からである。当時、いじめを苦にした子どもの自殺事件が相次いだことが契機となった。「昨今のいじめは、たんに発生件数が多いというだけでなく、かつてのそれとは性質を異にしている」といった見解が、一般の人びとのあいだに流布しはじめたのもこの頃である。また、青少年白書の非行カテゴリーに「いじめ」という項目が設けられたのも、ちょうど85年度版からだった。

いじめが問題視されはじめた当初は、いじめの加害者と被害者の双方のパーソナリティの特徴が探られ、その類型化がさかんに行なわれた。そして、いじめの加害者にも被害者にも、それぞれ性格上の偏りが見られるという見解が一般に流布された。当初のいじめ問題は、いじめをする側とされる側の、個々の性格上の問題として語られたのである。当の生徒たちが発する言葉も、「いじめるやつは性格が悪い」「いじめられるのも性格が悪いから」といったように、個々の性格に問題を帰するものが多かった。こうして、いじめは「心の問題」として語られ、スクール・カウンセラー制度が導入される契機にもなった。

いじめが当事者たちの性格上の問題であるなら、加害者と被害者の関係は、ほぼ固定的なものとなるはずである。いじめに対するこのような見方は、当時のいじめの定義にも如実に反映されている。たとえば、当時の文部省によるいじめの定義は、「自分より弱いものに対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」だった。しかしその後、子どもたちの世界にきめ細かなまなざしが注がれるようになるにつれ、この定義では把握しきれない事例が多く見られることに気づく。現代のいじめは、いろいろな意味で非常に流動的な現象だということが分かってきたのである。

現代のいじめの特徴としてまず注目されたのは、ある特定の生徒だけがいじめの被害に遭(あ)うわけではないということ、すなわち被害者の不特定性だった。生徒たちの日常世界をよく観察していくと、一般的にみて攻撃されやすい属性をもった生徒だけがいじめられるわけではないことが明らかになってきた。引っ込み思案がいじめられる一方で、出しゃばりもいじめられる。大人から見れば優等生のような生徒もいじめの対象となりうることが

見えてきた。

さらには、いじめの加害と被害の関係が固定化されたものではなく、時と場合に応じて両者が容易に入れ替わる流動的なものだということも徐々に分かってきた。いじめの加害者には、かつてはいじめの被害者だった生徒も意外と多いし、逆に、かつてはいじめる側にいた生徒がいじめられる側に転じてしまったというケースもよく見受けられる。そして、両者の立場が容易に逆転しやすいというだけでなく、その境界線自体もじつに曖昧(あいまい)で、状況に応じて微妙に揺れ動くことが指摘されるようになった。

（出典：土井隆義（2008）友だち地獄―「空気を読む」世代のサバイバル、ちくま新書、19 頁～21 頁．一部を改変した。）